

第2期瀬戸谷中学校区小中一貫教育推進計画

郷土愛に満ちた夢あふれる

せとやっ子の育成に向けて



瀬ピア（瀬戸谷中学校区ピア・サポートキャラクター）

令和4年3月

瀬戸谷中学校区学校運営協議会

目 次

I	計画策定にあたって	ページ
1	本計画の位置づけ	1
2	これまでの経緯	2
3	成果と課題	3
II	瀬戸谷中学校区小中一貫教育方針	
1	瀬戸谷中学校区で育てたい子供像	5
2	推進方法	6
3	推進形態	6
III	具体的な取組	
1	取組内容	7
IV	計画年次	
1	計画の期間	11
V	資料	
1	推進協議会委員等	12
2	用語解説	13

I 計画策定にあたって

1 本計画の位置づけ

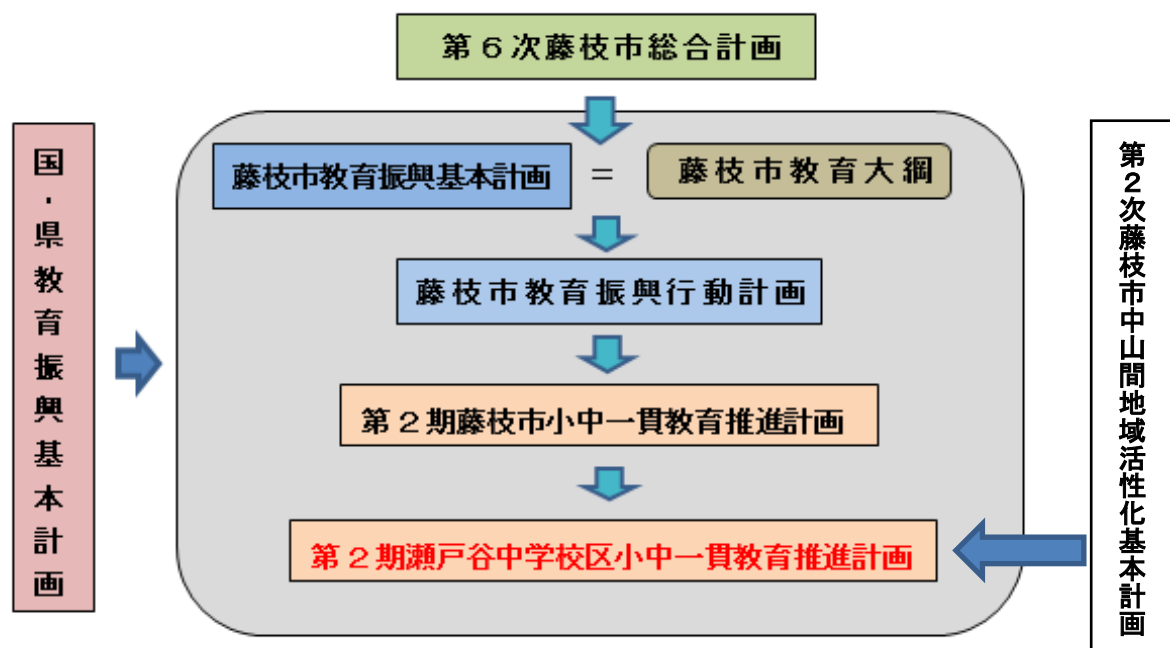
小中一貫教育は、「第6次藤枝市総合計画」における7つの基本目標の内の1つである「子供が健やかに学び、育つ藤枝づくり」の「学校教育の充実」の中の施策として、「小中一貫教育の推進」を位置づけています。

また、「藤枝市教育大綱」や「藤枝市教育振興基本計画」においても「一人ひとりの子供に未来を生き抜く力を育てる」ことを目標とし、目標実現のための具体的な取り組みを示す「藤枝市教育振興行動計画」に小中一貫教育の推進を掲げています。

「藤枝市小中一貫教育推進計画」は、今後の本市における小中一貫教育を推進するための基本理念や基本方針及び取組事項を定めており、これを受けて中学校区ごとに小中一貫教育推進計画を策定しています。

本計画は、「中学校区小中一貫教育推進計画」の瀬戸谷地区版となるもので、前計画における5ヵ年計画での取組・実践を踏まえて、学校運営協議会で協議を重ね策定し、「第2期瀬戸谷中学校区小中一貫教育推進計画」として位置づけます。

瀬戸谷中学校区小中一貫教育推進計画の位置づけ



2 これまでの経緯

瀬戸谷小・中学校では、平成 18 年度に藤枝市教育委員会から「小中連携」についての研究指定を受け、さらに平成 23 年度からは本市において小中学校連携ドリームプラン事業¹が開始され、小中学校の教員や子供たちが授業や行事等でお互いに交流することを通して、小中一貫教育の実現に向けた取組を重ねてきました。

その後、平成 29 年度からは瀬戸谷中学校区の小中一貫教育を開始させ、さらに令和元年度から学校運営協議会を設置しコミュニティ・スクールを推進してきました。

主な取組として以下に述べます。

1 乗り入れ授業

中学校教員が、主に小学校 5、6 年生を指導・支援

2 小学生が週 1 回、中学校で生活

小学校 5、6 年生が、毎週木曜日に中学校校舎で授業・給食

3 中学生が年間 4 回、小学校校舎で生活

中学校 1、2 年生が、年間 2 回ずつ小学校校舎で授業・ふれあい活動

4 小中合同開催行事

体育祭、避難訓練、学校保健委員会、あいさつ運動、生き方講話、観劇の夕べなど

5 各種発表会等への招待、合同参加

総合発表会参観、合唱交換、中学生の駅伝大会応援、「せとやまるかじり」

6 教員研修会

小中合同研修会・こども園小中合同研修会として、授業公開

特に、小中合同体育祭「燃えろ せとやっこ体育祭」は、10 回目を迎え、保護者・地域社会にも、瀬戸谷地区の児童生徒の深い関わり合いが周知されてきました。

こうして、第 1 期（平成 29 年度から令和 3 年度）の実践をもとに、さらなる小中一貫教育の発展を目指します。



（中学生：小学校でのあいさつ運動）

3 成果と課題

【成果】

（１）社会的資質の向上

- **小中学生の瀬戸谷地域への参画意識がさらに高まりつつある。**
 - ・ 学習成果の発表の一環として、保護者や地域の人を招いて、発表会を行った。またその時の映像を藤の瀬会館で流すことで地域に発信することができ、小中学生の考えや教育活動の様子が広く理解されるようになってきた。
 - ・ 小中合同体育祭では、保護者や地域の人たちに競技への参加や準備への協力をいただき、保護者や地域の人と小中学生とが一緒になって1つの行事を創り上げる体験ができた。

（２）確かな学力の習得

- **小中学生ともに学びの質が向上している。**
 - ・ 乗り入れ授業²やティームティーチング³の授業合同授業等により、多様な学びが可能になり、学びの充実や深まりがみられた。
 - ・ 中学校教員の教科の専門性が高い指導が、小学生の興味関心を高めている。
 - ・ 小中学生が授業で交流することで、お互いのよさを感じ合いながら活動できている。



（小6：中学校での英語授業）

（３）豊かな人間性の育成

- **小学生と中学生、小学生と中学校教員とが心温まる交流をしている。**
 - ・ 5, 6年生は週1回の中学校での生活により、中学校を肌で感じる事ができており、スムーズな中学校への入学につながっている様子がある。いわゆる中1ギャップ⁴の解消につながっていると考えられる。
 - ・ 行事（主に体育祭）の話し合いにおいて、中学生が小学生のことを考え、活動を計画する姿が見られ、相手を思いやる気持ちが育まれる体制が自然とできている。
- **小中学生と地域の方々との触れ合いが心の耕しにつながっている。**
 - ・ 小中学生が地域の行事等に積極的に参加し、地域の人たちと直に触れ合うことで人との関わりの在り方を学んでいる。
 - ・ オンラインによるビデオ通話等を活用することで、小中学生が地域の方々から地域文化について学び、画面越しにあいさつをしたり感想や感謝の気持ちを伝えたりするなど、心と心がつながる交流を行ってきている。

(4) 地域を担う人材の育成

○ 「地域の子供たちを地域みんなで育てている」という意識をさらに高めている。

- ・授業や学校行事などで地域の人に施設を案内いただいたり、講話をいただいたりすることを通して、郷土愛や職業観を醸成している。
- ・学校がHUG訓練⁵（避難所運営訓練）を地域の方（自治会長や地区防災委員、組長等）とともに行うことで、地域の中の学校の役割、中学生に期待されている役割を相互に確認することができた。



（地域の方と行うHUG訓練）

(5) 教職員の指導力向上

○ 小中学校それぞれの理解が深まり、教職員の教育に対する見方・考え方が深まった。

- ・小学校教員は、中学校卒業までにつけたい力を考え、中学校教員は、小学校1年生からの発達段階を知ることにより、子供たちの9年間の学びと育ちを考えることができるようになってきた。
- ・中学校教員は、学びの連続性・系統性を意識し、小学校教員は、中学教育を意識した指導を心掛けるようになった。
- ・特別な支援を必要とする児童生徒を共通理解するようになった。
- ・小中教職員の授業に関する打ち合わせ等、日常的な情報交換が活発になり、小中教員の授業に対する理解を深めるとともに、互いの同僚性の意識や一体感が高まった。
- ・合同研修会や授業を見る機会が増えたことにより、目指す子供の姿を都度確認するとともに、教員の指導力の向上(充実)につながった。



（小中教員合同研修会）

【課題】

- ・小中学校全職員が満遍なく小中一貫教育に関わることができていない。
→ 組織的な体制づくりや意識改革を更に進めていきたい。
- ・小中学校の校舎間は 1.2km の距離があり、時間的、経済的、心情的負担がある。
→ 地域実行委員会によって、令和2年12月に小中学校施設一体化提言書が市長に提出された。
- ・教職員の出張や緊急時の体制など、通常時以外での教職員の指導体制も整備していかなければならない。



（小5、6：中学校の授業に移動）

Ⅱ 瀬戸谷中学校区小中一貫教育方針

1 瀬戸谷中学校区で育てたい子供像

本地区では、本市が目指す「未来を生き抜く力の育成」のために、地区の子供たちの実態に即しながら、地域の願いを込めたキャッチフレーズと、家庭・地域・学校等が相互に連携・協力しながら、小学校と中学校が一貫して育てたい子供像を共有し、地域総ぐるみで子供の育ちを支援してきました。

今後も、児童生徒一人ひとりに、将来の夢や希望を持たせ、小規模校ならではの良さを生かし、様々な体験や交流を通し、その子の可能性を引き出し、伸ばす、そして地域ぐるみの9年間の教育を通して郷土への愛着を感じ、地域を担う人材を育成することを目指していきます。

キャッチフレーズ

『郷土愛に満ちた夢あふれるせとやっ子の育成に向けて』

郷土愛
ふるさとを
大切にする

夢
将来に希望を
持ち努力する

多様性
自らの可能性
を伸ばす

瀬戸谷小中学校の教育を通して育てたい子供像

- 1 自分のよさや可能性に気づき、夢の実現に向けて意欲を持ち、粘り強く努力する子ども
- 2 9年間で、知・徳・体をバランスよくはぐくみ、自分の成長を実感して自らの可能性を広げていく子ども
- 3 仲間や地域の人たちと積極的にかかわり、自他のよさを認め合い、自分も相手も大切にする子ども
- 4 瀬戸谷の人・自然・文化・産業等について深く理解し、郷土を大切にする子ども

2 推進方法

本地区においても、第2期藤枝市小中一貫教育推進計画に合わせ、以下の項目に沿った「Ⅲ 具体的な取組」(P7～)事業を展開していきます。

第2期藤枝市小中一貫教育推進計画の推進方法

(1) 社会的資質の向上 ～ ふれあいでつなぐ ～

コミュニティ・スクールでの家庭・地域・学校等の連携・協働により、子供たちの社会参加の機会を充実させ、地域の人と触れ合う体験をする中で、自己肯定感⁶(自尊感情)を高め、社会を生き抜くたくましさ、社会の変化に適応する能力や社会性を育成します。

(2) 確かな学力の習得 ～ 学びをつなぐ ～

9年間を見通した系統的・継続的な学習指導や学習習慣の確立を図るとともに、コミュニティ・スクールとの連携により地域人材を活用した授業を推進し、子供の学習意欲の向上や確かな学力の習得に努めます。

(3) 豊かな人間性の育成 ～ 夢・希望をつなぐ ～

各中学校区で積み上げた教育活動、児童生徒間の多様な交流や、コミュニティ・スクールでの地域との交流等により、豊かな人間性や思いやりの心を育みます。

(4) 地域を担う人材の育成 ～ 地域でつなぐ ～

コミュニティ・スクールを通して、家庭・地域・学校等が一体となった教育環境づくりを推進し、地域に愛着と誇りを持ち地域に貢献する人材を育成します。

(5) 教職員の指導力向上 ～ 教えをつなぐ ～

小中一貫教育コーディネーターが中心となり、小中学校等の教職員が合同研修会や合同授業研修会等の交流を行うことを通して、相互理解を深め、9年間を見通した教育を展開し、子供一人ひとりの学びの保障に努めます。

3 推進形態

コミュニティ・スクールの活動をさらに充実させ、家庭・地域・学校等が連携・協働した「地域とともにある学校づくり」の充実を目指していきます。

各学校において、小中一貫教育を推進する担当教員を「小中一貫教育コーディネーター」として位置づけ、コミュニティ・スクールディレクターと連携を取りながら、小中一貫教育の更なる推進を図っていきます。

Ⅲ 具体的な取組

1 取組内容

(1) 社会的資質の向上

① 家庭・地域・学校等で育てたい子供像の共有化

- ・小中学校教職員だけでなく、保護者、地域にも育てたい子供像を周知します。
- ・家庭・地域・学校等が一体となった教育環境づくりを推進し、地域ぐるみで子供の成長を支援します。

② ふじえだ型ピア・サポート活動⁷の充実

- ・教育活動全般において、ピア・サポート活動を推進し、異学年との交流を図るなど、中学生が交流活動等でピア・サポートの実践を小学生に伝えたり、体験活動を行ったりします。

③ 地域が一体となったあいさつ運動、見守り活動の推進

- ・家庭・地域・学校等が一体となったあいさつ運動や見守り活動を推進し、地域の一員であるという自覚をもつと共に、あいさつの大切さを学び、感謝する心を育みます。

④ 地域の行事等への参加・参画を通して社会性の育成

- ・地域の行事等への参加・参画を通して、地域の人たちと触れ合うことで人との関わりを学び、社会性を育みます。

⑤ キャリア教育⁸の充実

- ・小学校から中学校まで特別活動の時間にキャリアパスポート⁹を継続して活用し、キャリア教育の充実を図ります。

(2) 確かな学力の習得

① 各教科等指導の充実

- ・小学校高学年における教科担任制を更に推進するとともに、中学校教員の乗り入れ授業や小中学校教員でのチームティーチングを実施します。
- ・専門機関や地域人材によるゲストティーチャー¹⁰の授業等を検討し、子供の夢を育みます。
- ・小学校高学年が週1回中学校で生活し、中学校教員が算数や英語、社会、理科、書写などの乗り入れ授業を実施します。
- ・中学校教員が小学校で、英語や理科、社会、体育、音楽などの乗り入れ授業をそれぞれ週2～3コマ実施します。(チームティーチングを含む)

- ・ 中学 1, 2 年生が年 4 回小学校で授業を行い、小学校の低・中学年の教員がティームティーチングで授業をサポートします。

② 小中一貫教育カリキュラムの充実

- ・ 「藤枝市小中一貫教育カリキュラム¹¹」を活用し、教科等の系統性・連続性のある教育活動を推進します。
- ・ 体育など、小学生と中学生が合同で授業を行う機会をつくり、お互いの関わりの中でよい手本となったり自己有用感を感じたりしながら、共に成長できるカリキュラムを創造します。
- ・ 小中 9 年間の生活科・総合的な学習の時間で、「瀬戸谷大好き」を貫いた探求活動をカリキュラムに位置づけます。

③ I C T¹² 機器の効果的な活用

- ・ 一人ひとりの学びを保障するため、オンライン等を利用した授業を活用します。
- ・ 各教科等の授業で、I C T 機器を効果的に活用し、プログラミング教育¹³の充実を図ります。
- ・ 小中学校合同の道徳授業や特別活動等では、学校間でのオンラインによるビデオ通話等を継続して活用していきます。

(3) 豊かな人間性の育成

① 道徳教育、人権教育、福祉教育の充実

- ・ 育てたい子供像に沿った道徳教育の小中学校指導プログラムを策定します。
- ・ 郷土の歴史・伝統・文化に造詣の深い地域のゲストティーチャーを発掘するとともに、地域の人材をデータベース化し、子供の郷土への愛着意識を高める活動を充実させます。
- ・ 学校行事にお年寄りを招待するなど、子供たちとの触れ合いを楽しみにしているお年寄りとの活動を積極的に進めていきます。

② 小中学生の交流

- ・ 児童会・生徒会による協働のあいさつ運動を実施するなど、地域に根ざした健全な子供を育成します。
- ・ 小中学校合同体育祭等の行事において、企画・準備から当日の競技・運営に至るまで、あらゆる場面で小中学生の交流を促進します。



(小中合同体育祭)

③ 地域と協働した教育の推進

- ・学校サポーターズクラブ¹⁴や地域諸団体と連携しながら、地域の人材が学校に関わる機会の拡大に努めます。
- ・コミュニティ・スクールの成果をさらに伸ばし、家庭・地域・学校等が一体となった教育を目指します。
- ・地域開催の各種講座・スポーツ教室と、学校行事との連携等を模索し、子供が地域と関わる場の拡大を検討します。
- ・地区交流センターとの連携により、放課後学習支援の機会や子供が地域の人たちとふれあう場の充実を図ります。

④ P T A、地域交流活動の連携

- ・小中学校合同体育祭や広報活動等において、より多くの地域の人たちに参画いただける工夫をします。
- ・小中学校のP T Aと地域とが連携できる活動内容を検討し、読み聞かせやブックリスト等を活用した読書指導の充実を図ります。

(4) 地域を担う人材の育成

① 地域の一員としての自覚の醸成

- ・子供たちが地域の一員としての自覚を醸成するために、地域防災訓練等に積極的な参加・参画を促します。その際、学校の行事等を調整するなど、参加しやすい環境づくりにも努めます。

② 地域人材の活用

- ・総合的な学習の時間の充実を図るため、学校サポーターズクラブや地域のゲストティーチャーとの連携を深めます。
- ・地域と協働して総合的な学習の時間等の時間を使い、郷土の歴史、文化、産業に触れる体験を重視し、地域行事にも積極的に参画します。
- ・子供たちに地域の未来を意識した活動ができるよう、学校や地域で検討します。



(小1：生活科「七夕の短冊づくり」)

③ 地域交流の拡大

- ・地域開催の各種講座、スポーツ教室と学校行事との連携を模索し、子供が地域と関わる場の充実を図ります。
- ・地区交流センターとの連携により放課後学習支援の機会や、子供が地域のひととふれあう場の充実を図ります。
- ・地域外の学校等との交流を通して、広い視野を養います。

④ 地域へ発信

- ・地区交流センター等で学校行事を紹介する写真や映像の展示を継続して実施します。
- ・小中一貫教育だよりの発行を通して、小中学校での子供の様子を地域に発信するとともに、地域からの協力を感謝を伝えます。



(小中一貫教育だよりの)

(5) 教職員の指導力向上

① 小中学校教員が授業や行事で交流し、子供の姿を共有

- ・小学校高学年が週1回中学校で生活する時に、中学校教員が小学校教員とチームティーチングを行います。

② こども園、小中学校合同研修会の充実

- ・定例のこども園、小中学校合同研修会に加え、ICT機器を活用し、教材の有効活用等についても情報交換に努め、授業力を高めます。

③ 教職員の研修・研鑽機会の拡充

- ・ICT機器を活用しながら、生活指導等についても小中学校合同で情報を共有し、教員間も切磋琢磨し、研修し合う環境づくりに努めます。
- ・教員を他校の研究発表会や研修会等に派遣し、実践に触れる機会を設けます。

④「育てたい子供像」に向けた共通理解の促進

- ・子供の指導・支援上の留意事項等は9年間確実に引き継ぎ、継続的な指導・支援をすることで子供の持つ様々な可能性を伸ばします。また、P D C Aサイクル¹⁵に基づき、子供たちの育ちを小中学校で確認する場として合同の教育課程編成会議等を実施します。

（6）将来に向けて

- ① 施設一体化（義務教育学校化を含む）に向けた検討
- ② 小規模特認校制度¹⁶を活かした9年間を通じた協働的な学びの充実

IV 計画年次

1 計画の期間

本計画は、令和4年度を初年度とし、令和7年度を目標年度とする4ヶ年計画とします。

ただし、社会情勢の変化や国・県の施策と連動するため、基本的には4年後に見直しをしていきますが、上位計画である「第2期藤枝市小中一貫教育推進計画」と連動する中で、必要が生じた場合には随時改訂していきます。



（小2：生活科「田植え体験」）

V 資料

1 学校運営協議会委員

令和3年度 瀬戸谷中学校区学校運営協議会委員名簿

	氏 名	所属団体等
1	上山 勝吾	第二自治会長 瀬戸谷地区支部長
2	佐野 芳正	第一自治会長
3	澤口 益夫	第三自治会長
4	飯塚 保久	前会長、前第三自治会長
5	勝治 松雄	前第一自治会長
6	奥川 準造	前第二自治会長
7	杉田 浩美	前々会長、地域代表
8	中村 茂	中学校特別非常勤講師
9	渡辺 富夫	地域学校協働活動推進員
10	古藤 めぐみ	地域代表
11	竹下 由美子	主任児童委員
12	山名 徹	学識経験者（元工学院大学教授）
13	中村 亮	瀬戸谷中学校PTA会長
14	後藤 康良	瀬戸谷小学校PTA会長
15	山田 雅己	瀬戸谷地区交流センター長
16	八木 克典	瀬戸谷中学校校長
17	黒瀬 純孝	瀬戸谷小学校校長
18	西ヶ谷 友恵	瀬戸谷中学校教頭
19	鈴木 貴子	瀬戸谷小学校教頭
20	黒山 金苗	コミュニティ・スクールディレクター 地域学校協働活動推進員

2 用語解説

か 行

14 学校サポーターズクラブ

国の取組である地域学校協働活動の一部として、本市独自に学校への支援する体制を「学校サポーターズクラブ」と名付け、学校が必要とする活動について、地域の人々をボランティアとして派遣する組織。家庭・地域・学校等が一体となって地域ぐるみで教育に取り組む体制の構築を目的としている。

8 キャリア教育

一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育。

9 キャリアパスポート

新学習指導要領でキャリア教育を推進するため、特別活動の時間に子供たちのキャリア教育に関する活動を記録し、振り返ることのできる教材として文部科学省が推奨しているもの。

10 ゲストティーチャー

子供の視野の拡大や専門性に触れる機会づくりのために、総合的な学習の時間や道徳等で指導者として、特別に学校に招き、指導をする人。各種の職業人やボランティア活動に取り組む人、様々な趣味を持つ人など、その道の専門家が多い。

さ 行

6 自己肯定感

「自分は大切な存在だ」「自分はかけがえのない存在だ」と思える心の状態を示す。自己肯定感を高めると、子供の自信や意欲を生み出し、行動力や対人関係力が向上する。

1 小中学校連携ドリームプラン事業（藤枝市独自事業）

子供たちが夢を持ち、教員にとっても教育研究となることを目的として、地域での9年間を意識し、同一中学校区の小中学校が連携して行う交流事業や講演会、研修会などの取り組みを支援する藤枝市独自の事業。

16 小規模特認校制度

少人数ならではのきめ細かな指導や特色ある教育活動を展開する学校への入学・転学ができる制度。本市では、葉梨西北小学校、瀬戸谷小学校、朝比奈第一小学校の3校が対象となっている。

た 行

3 ティームティーチング

複数の教員が、役割分担と相互協力のもとに指導計画を立てて、指導を行う方法のこと。児童生徒の学習速度や習熟度などに合わせて、きめ細かな指導や多様な学習形態が可能となる。

4 中1ギャップ

小学校から中学校に進学したときに、学習や生活の変化になじめず、いじめや不登校などのさまざまな困難を抱えてしまう生徒が増える現象のこと。いわゆる「問題行動等調査」の結果を学年別に見ると、小6から中1で不登校数等が急増するように見えることから使われ始めた。

な 行

2 乗り入れ授業

中学校教員が小学校で教科担任をしたり、ティームティーチングで指導を行ったり、小学校教員が中学校で授業を行うこと。

は 行

7 ふじえだ型ピア・サポート活動（藤枝市独自事業）

児童生徒同士など同じ立場の仲間同士で思いやり支え合う実践活動。

子供のコミュニケーション能力や、思いやりの心を育むことを目的とした子供自身が自発的に行う活動。ボランティア清掃から友達への声かけといったさりげないものまで、「人のためになる、仲間を助ける活動」のことを指す。ふじえだ型とは思いやり溢れる学校風土を醸成していくことをねらいとし、これによって悩みを抱えたり、友達関係をうまく結べなかったりして何らかのサポートを必要とする子供たちへの支援につなげようとしている部分で、「人と支え合い、つながり、関わり合う活動」を指している。

11 藤枝市小中一貫教育カリキュラム（藤枝市独自事業）

「授業で人を育てる」を合言葉に、本市で伝統的に取り組んできた藤枝型授業を意識し、平成29年3月に改訂された新学習指導要領をベースに、市内教職員を中心にして作成した小中一貫教育のための小中学校9年間における各教科の教育内容計画。

本市が取り組む小中一貫教育を推進する1つの柱として、学習指導のつながりを明確にし、基本的な知識及び技術の確実な習得を目指すとともに、全教職員が9年間を見据えた質の高い指導を行うことができるよう、全教科と特別支援教育分野で作成。本市教職員全員に配布している。

13 プログラミング教育

子供たちに、コンピュータに意図した処理を行うよう指示することができるということを体験させながら、将来どのような職業に就くとしても、時代を越えて普遍的に求められる力としての「プログラミング的思考」などを育むこと。

アルファベット

5 HUG訓練（ハグ）

HUG訓練とは、Hinanzyo Unei Game（避難所運営ゲーム）を活用して、机で行う避難所運営訓練のこと。

この避難所運営ゲームは、避難所運営を皆で考えるための一つのアプローチとして静岡県が開発したもので、避難者の年齢や性別、国籍やそれぞれが抱える事情が書かれたカードを、避難所の体育館や教室に見立てた平面図にどれだけ適切に配置できるか、また避難所で起こる様々な出来事にどう対応していくかを模擬体験する仕組みになっている。

12 ICT（アイシーティー）

Information and Communication Technology の略。コンピュータや情報通信ネットワーク（インターネット等）などの情報コミュニケーション技術のこと。社会の情報化が急速に進展する中で、学校においても、コンピュータやインターネット、デジタルカメラ、タブレット、電子黒板等のICTが多様な学習のための重要な手段として活用されれば教育の質の向上が図れると期待されている。

15 P D C Aサイクル

典型的なマネジメントサイクルの1つで、計画（Plan）、実行（Do）、評価（Check）、改善（Act）のプロセスを順に実施する。教育施策においては、目標を明確に設定し（Plan）、実施し（Do）、その成果を客観的に検証し（Check）、その結果を改善して次の教育施策に反映させる（Act）という循環サイクルのこと。

第2期瀬戸谷中学校区小中一貫教育推進計画

令和4年3月

瀬戸谷中学校区学校運営協議会

藤枝市教育委員会 教育政策課

